

# 福祉情報学科



科目名	ユニバーサルデザイン情報論	開講時期	4年 前期
担当教員	平井利明	単位数	2
テーマ	障害者・高齢者・情報社会を意識したユニバーサルデザイン		
授業の概要と目的	<p>(概要)</p> <p>障害者・高齢者・情報社会におけるユニバーサルデザインの基本的な考え方や技術等について総合的に学び製品機器開発・創出の知識等を身につける。</p> <p>(目的)</p> <p>ユニバーサルデザインを学ぶことで障害者や高齢者の自立を促す製品機器開発・創出ができる、またその支援としての情報技術の知識・技術の利用・活用の必要性を学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第 1回 ユニバーサルデザインの考え方とその発見</p> <p>第 2回 視覚障害と視覚障害者支援の必要性</p> <p>第 3回 視覚障害者支援のユニバーサルデザイン</p> <p>第 4回 聴覚障害と聴覚障害者支援の必要性</p> <p>第 5回 聴覚障害者支援のユニバーサルデザイン</p> <p>第 6回 知的障害と知的障害者支援の必要性</p> <p>第 7回 知的障害者支援のユニバーサルデザイン</p> <p>第 8回 肢体不自由と肢体不自由者支援の必要性</p> <p>第 9回 肢体不自由者支援のユニバーサルデザイン</p> <p>第10回 ピクトグラムとシンボル、その役割</p> <p>第11回 ピクトグラムの作成</p> <p>第12回 コミュニケーションボードとその役割</p> <p>第13回 コミュニケーションボードの作成</p> <p>第14回 カラーユニバーサルデザイン①</p> <p>第15回 カラーユニバーサルデザイン② 総合まとめ</p>		
テキスト	特に指定しません。		
参考文献	講義中適宜紹介します。		
成績評価の基準・方法	試験および課題提出で評価します。 無断欠席は1回につき7点の減点となります。		
質問・相談の受付方法	講義終了後、昼休み等 メールで常時受け付け（学内ネットワーク）		
履修要件	履修要件は特にありませんが、視覚障害情報保障論や福祉対話技法、Web アクセシビリティ論などを履修していると理解が容易となります。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	ユニバーサルデザイン全般について、ユニバーサルデザインに関する商品等を考案したいと思う学生には大いに役立つ授業です。		

科目名	社会福祉援助技術論Ⅱ（再履修クラス）	開講時期	3年通年（集中講義）
担当教員	大谷 佳子	単位数	4
テーマ	援助技術の基礎的な知識と実際を学習する		
授業の概要と目的	社会福祉援助技術論Ⅱでは、社会福祉援助技術論Ⅰで学んだ基礎的な知識をふまえて、個別・集団・地域などのさまざまな援助技術の展開過程や方法、実践原則について学習する。社会福祉士の国家試験で求められている基礎的な専門知識の習得を目標とする。		
授業計画	第 1回 授業に関するオリエンテーション 第 2回 社会福祉士の倫理綱領：前文 第 3回 社会福祉士の倫理綱領：倫理基準 第 4回 社会福祉士の倫理綱領：行動規範 第 5回 援助技術の体系：直接援助技術 第 6回 援助技術の体系：間接援助技術 第 7回 援助技術の体系：関連援助技術 第 8回～第 10回 個別援助技術：原則・定義 第 11回～第 12回 個別援助技術：記録 第 13回～第 15回 個別援助技術：展開過程 第 16回～第 18回 個別援助技術：アプローチ 第 19回～第 21回 集団援助技術：原則・定義 第 22回～第 24回 集団援助技術：展開過程 第 25回 間接援助技術：地域援助技術・社会活動法 第 26回 間接援助技術：社会福祉調査法 第 27回 間接援助技術：社会福祉運営管理 第 28回 関連援助技術：ケアマネジメント 第 29回 関連援助技術：スーパービジョン 第 30回 関連援助技術：ソーシャルネットワーク		
テキスト	福祉士養成講座編集委員会 『新版社会福祉士養成講座⑨ 社会福祉援助技術論Ⅱ第4版』中央法規出版		
参考文献	講義中、適宜紹介する。		
成績評価の基準・方法	テスト① 50% テスト② 50%		
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいは講師控え室にて受け付ける。		
履修要件	特に設けない。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】		
その他	再履修者を対象として集中講義の形式で開講します。		

科目名	社会福祉援助技術現場実習指導（旧カリ）		開講時期	4年前期	
担当教員	太田晴康、鈴木武幸、相原真人 清水将一、石光和雅、三岳貴彦		単位数	(前年度からの継続受講で) 6	
テーマ	実習前：実習に必要な倫理・知識・技術等を身に付ける。 実習後：対人援助専門職としての自己の資質および専門性を確認する。				
授業の概要と目的	実習は、対人援助専門職として現場で仕事をするための力量を総合的に身に付ける必須の過程である。この授業は、そのような実習を遂行する力量を養うため、福祉現場で必要とされる態度やマナーをはじめ倫理・知識・技術等を身に付けるとともに、実習内容の振り返りを通じて専門職としての自己のあり方を問うことが目的となる。				
授業計画	1 オリエンテーション(共)	16 前期実習の振り返り①	31 後期実習の振り返り①		
	2 実習の手引き①(共)	17 " ②	32 " ②		
	3 " ②(共)	18 " ③	33 " ③		
	4 実習施設の学習①	19 前期実習報告会①	34 実習報告書の作成①		
	5 " ②	20 " ②	35 " ②		
	6 " ③	21 " ③	36 " ③		
	7 個人票の作成①	22 実習施設の学習④	37 " ④		
	8 " ②	23 " ⑤	38 " ⑤		
	9 " ③	24 " ⑥	39 プレゼンテーション①		
	10 施設職員等の講演①	25 施設職員等の講演②	40 " ②		
	11 実習計画の作成①	26 実習計画の作成④	41 " ③		
	12 " ②	27 " ⑤	42 " ④		
	13 " ③	28 " ⑥	43 " ⑤		
	14 実習日誌の書き方①	29 実習日誌の書き方③	44 実習報告会		
	15 " ②	30 " ④	45 総括		
テキスト	1 社会福祉援助技術現場実習の手引き 2 宮田和明・加藤幸雄・野口定久他編集「五訂 社会福祉実習」中央法規出版				
参考文献	その都度紹介する。				
成績評価の基準・方法	<b>積極性</b> （50%）＋ <b>提出物</b> （実習報告書を含む）の <b>内容</b> （50%）を総合して評価する。				
質問・相談の受付方法	基本的には授業中に回答する。また、必要に応じ、アポイントメントを取った上で各クラス担当教員の研究室等でも受け付ける。				
履修要件	2年生の段階で「 <b>実習登録申込書</b> 」を提出し、「 <b>社会福祉原論</b> 」「 <b>老人福祉論</b> 」「 <b>障害者福祉論</b> 」「 <b>児童福祉論</b> 」「 <b>介護概論</b> 」「 <b>社会福祉援助技術論Ⅰ</b> 」の単位を取得した者。 なお、「 <b>社会福祉援助技術論Ⅱ</b> 」もあわせて履修登録すること。				
特別学生の履修の可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】				
その他	前期、後期ともに <b>欠席回数</b> が <b>それぞれ6回以上</b> となった場合は、配属済みであっても <b>実習に参加できないことがある</b> ので注意すること。また、3回連続で授業を欠席したときは、呼び出しのうえ面談を実施することがある。なお、4年次において実習を行う場合、 <b>本学の一般的な実習期間とは異なる</b> ことがあるので注意すること。				

科目名	精神保健福祉援助実習 I	開講時期	4年通年
担当教員	長坂 和則・石光 和雅・吉永 洋子	単位数	4年次4(3年次2)
テーマ	精神保健福祉現場における実習などの体験を通して、総合的に精神障がい及び精神保健福祉について学ぶ		
授業の概要と目的	<p>(目的) 精神障がいを持つ方々の理解を深め、精神保健福祉士が実施する連携を中心に、精神保健福祉援助技術を体系的に学ぶ。自己覚知を通して専門職としての倫理を身につける。</p> <p>(概要) 3年次の実習の振り返りと、4年次の実習の準備及び実習報告会を通して、精神保健福祉現場の現状及び精神保健福祉士としてのあり方を理解する。</p>		
授業計画	<p>基本的には、3年次は金曜日3限に、4年次は金曜日4限に実施する。内容は、教材を通しての講義を実施する。3・4年生の合同授業があるため、金曜日3限4限ともこの実習の授業があることを想定し、他の授業は履修をしないことが好ましい。</p> <p>1 オリエンテーション</p> <p>2 前期実習の自己評価・施設評価などの評価表によるフィードバック</p> <p>3・4 3年生との交流会(3・4限)</p> <p>5 実習事前学習</p> <p>6・7 講演会</p> <p>8～15 実習事前学習</p> <p>16 実習報告会リハーサル</p> <p>17 実習報告会(プレゼンテーション)</p> <p>18～21 実習の振り返り及び国家試験など実践のあり方の検討</p> <p>22・23 講演会</p> <p>24～30 精神保健福祉士としての実践のあり方の検討</p> <p>* 講演等の予定は、講師との調整中であり、日程の変更がありうる</p>		
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本精神保健福祉士養成校協会編集『精神保健福祉援助実習』(3年次購入済)</li> <li>本学精神保健福祉実習委員会作成『精神保健福祉援助実習 現場実習の手引き』(配布)</li> </ul>		
参考文献	<p>精神保健福祉のしおり(授業にて配布)</p> <p>講義において随時紹介する。</p>		
成績評価の基準・方法	<p>① 実習期間の評価 (50)</p> <p>② レポートその他の提出物の評価 (50)</p>		
質問・相談の受付方法	<p>オフィスアワーなどを積極的に利用してください。</p>		
履修要件	<p>「精神保健福祉援助見学」・「精神保健福祉論 C」の単位を修得していること。</p> <p>3年後期に「精神保健福祉援助実習 I」を履修していること。</p>		
特別学生の履修の可否	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴講生【不可】</p>		
その他	<p>授業中や講演会などでの積極的な発表や質問を望みます。</p>		

科目名	精神保健福祉援助実習Ⅱ	開講時期	3年後期～4年通年
担当教員	長坂 和則・石光 和雅・吉永 洋子	単位数	6単位
テーマ	精神保健福祉現場における実習などの体験を通して、総合的に精神障がい及び精神保健福祉について学ぶ		
授業の概要と目的	<p>(目的) 精神障がいを持つ方々の理解を深め、精神保健福祉士が実施する連携を中心に、精神保健福祉援助技術を体系的に学ぶ。自己覚知を通して専門職としての倫理を身につける。</p> <p>(概要) 概要自体は各実習生の計画および施設との調整による。そのポイントとしては、以下のものがあげられる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学内で学習した知識および技術についての再認識</li> <li>・ 精神保健福祉実践現場を知る</li> <li>・ 対象者について臨床的に学ぶ</li> <li>・ 専門職を目指すものとしての自己覚知を図る</li> </ul>		
授業計画	<p>原則の実習期間</p> <p>平成24年2月20日～3月6日 90時間以上</p> <p>平成23年8月21日～9月5日 90時間以上</p> <p>原則として、医療機関および社会復帰施設の2箇所において実施する。</p> <p>ただし、上記の原則は、施設との関係により変動がある</p>		
テキスト	<p>日本精神保健福祉士養成校協会編集『精神保健福祉援助実習』(3年次購入済)</p> <p>本学精神保健福祉実習委員会作成『精神保健福祉援助実習 現場実習の手引き』(配布)</p>		
参考文献	その他、講義にて適宜紹介する		
成績評価の基準・方法	<p>以下の配分で評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習施設の評価(50) 前期25・後期25</li> <li>・ 巡回時の評価(20)</li> <li>・ 実習報告書の内容および提出状況(20)</li> <li>・ 実習報告会の発表および内容(10)</li> </ul>		
質問・相談の受付方法	オフィスアワーなどを積極的に利用してください。		
履修要件	精神保健福祉援助実習Ⅰを履修していること。		
特別学生の履修の可否	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴講生【不可】</p>		
その他	精神保健福祉援助実習Ⅰを経て、いよいよ実習に入ります。実習指導者は、「後輩を育てる」つもりで、社会人としてのマナーを身につけた人間としての実習生を受け入れます。積極的に課題に取り組む姿勢を期待しています。		

科目名	福祉情報システム	開講時期	4年 前期
担当教員	横溝一浩	単位数	2
テーマ	人々の生活を支援するための支援技術(Assistive Technology)の理解と実践		
授業の概要と目的	障害のある人々の生活を支えるために、近年、情報技術をベースにした支援技術(Assistive Technology)が注目を集めている。しかし、障害のある人の多くは、支援技術に関する情報を入手する事に障壁を抱えており、それらの利用にはさらに大きな壁がある。これらの諸課題を解決するために、本講義では、支援技術の基本的な知識として『福祉情報技術コーディネーター認定試験』2級レベルを学習し、総合演習を通して実践力を養う。		
授業計画	第1回 福祉情報システムの概要 第2回 障害とテクノロジー 第3回 肢体不自由のある人と e-AT 第4回 視覚障害のある人と e-AT 第5回 聴覚障害のある人と e-AT 第6回 言語障害のある人と e-AT 第7回 重複障害のある人と e-AT 第8回 機器導入とサポートのポイント 第9回 福祉・教育制度 第10回 OSの設定 (Windows XP) 第11回 OSの設定 (Windows Vista) 第12回 OSの設定 (Windows 7) 第13回 OSの設定 (Mac OS X Snow Leopard) 第14回 新しいデバイス (Slate PC など) と e-AT 第15回 授業総括		
テキスト	なし		
参考文献	e-AT 利用促進協会編著『速習・独習テキスト 福祉技術コーディネーター認定試験』角川書店		
成績評価の基準・方法	演習・小テスト : 30% 授業態度 : 20% 試験 : 50% ※授業態度が極めて悪い場合 (私語など)、別の基準を適用する		
質問・相談の受付方法	e-mail による受付 ; 随時受付 (yokomizo@suw.ac.jp) 直接、質問・相談する場合 : 研究室 (201) にて授業・会議の空き時間に受付		
履修要件	特にないが、本科目を履修する場合は、社会福祉原論、老人福祉論、障害者福祉論、医学一般、情報科学概論、ソフトウェア、コンピュータシステムについて単位修得済みである事が望ましい (必須ではありません)。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生 【可】 聴講生 【可】		
その他	福祉情報技術コーディネーター認定試験 2 級レベルの受験対策も行います。		